

大草谷津田いきものの里自然観察会

クモはおもしろいぞ！ パート2

小川洋子（八千代市）

日 時：2015年10月18日（日）10:30～12:00 天候：晴

参加者：13名（大人8名、子ども5名）

担当指導員：松本美千代、小川洋子

最初に図を見てクモの体の作りや網の張り方、網を張るクモだけでなく徘徊性のクモもたくさんいることをお話しした。またオオトリノフンダマシやオナガグモの写真を見てもらしながら、変わった形のクモもいることを説明、そのオナガグモをはじめとするクモを探してくださいと参加者に霧吹きを渡してお願いした。

まず入り口にたくさん張られたジョロウグモの網、3層構造になっていて、奥の網には食べかすが付いている。網の真ん中に陣取るメス、その近くの小さめのクモがオス、網に光る小さな物体、これはシロカネイソウロウグモで、文字通りの居候だと説明、参加者の一人がここで撮ったイソウロウグモの写真を見せてくださり、これがクモ？と感心される方も。その後駐車場へ移動し、下見で見つけたフェンスのオオトリノフンダマシ（残念ながら死体）、近くには緑色のワキグロサツマノミダマシ、名前の由来を説明、さらにトイレの近くに張られたコガタコガネグモの円網を見に行った。下見では近づくと逃げたクモが、子どもが近づいても逃げない、しっかり観察できた。広場へ戻ってヨクサグモのたな網を観察、クモには悪かったが、子どもに糸を触ってもらい、近くのジョロウグモの糸と比べてもらった。クモの糸にはネバネバくっつく糸とつかない糸があることを理解してくれた。さらにビジョオニグモの網も拝見。霧をかけるとクモはカキの葉の隠れ家へ退散、お子さんの一人が、切れ網であることを発見してくれた。ようやく森の中へ。子どもたちの観察力は素晴らしい、下見でこちらが見逃していたハツリグモやオウギグモの網を次々発見、幼稚園児の坊やもウズグモの網に霧を吹きかけ、きれいな渦巻きを見て喜んでいた。

オナガグモは10数匹発見、糸に触ってもらうと粘り気なし。こんな糸を1本張っただけでどのように獲物を捕えるか推理してもらったが、正解なし。このクモはクモを捕食するクモ、クモが糸を通る習性を利用して待ち伏せし、獲物が来ると粘りのある糸を投げて捕える。オナガグモが多いということは餌になるクモが多く、クモが多いということはその餌となる昆虫が多いということ。生態系ピラミッドの図を見てもらしながら、オナガグモが多いことは大草の生態系が豊かな証拠と説明した。クモが嫌いと言っていたお子さん、好きになれないけど面白かったとの感想、縦糸と横糸の違いが分かつたと得意そうな小学生、ほかの参加者もクモの面白さに気付いてくださったようだった。

